

「ユーモアのテクニック」

ユーモアは、コミュニケーション技術の重要な要素である。しゃれて気の利いたユーモアは、その場かぎりのものでなく、聞く者の記憶に残る。時には気まずい雰囲気をつちまち明るくし、厳しい追及をさらりと受け流すのにも役立つ。

ではどの様にしてユーモアのあるスピーチを会得することができるのか？本格的にやるとなると、よく練り、よく練習しなければならないが、ユーモアを発揮する側はもとより、それを感じ取る側にも、洗練された言葉の感覚が必要なことは言うまでもない。

そのために、ユーモアを発揮する側、感じ取る側双方ともに重要なことは、意外にも「物知り」になることである。物知りであればある程、笑いのネタが豊富になるわけで、物知りなために損をすることはないし、知識を求める経験自体が楽しいことであり、さらには、「知識は笑いのもと」でもあるのだから。

ユーモアの種類

1・誇張・パロディー・比喩

まずは誇張法。ものごとを大げさに表現するだけでなく、ことばのもじりや比喩を使えば、誇張効果は倍増する。誇張が過ぎたホラ話を壮大な物語に仕上げたのが、デフォーの『ガリヴァー旅行記』であり、視覚的に誇張法を使うのがデフォルメや、諷刺画（カリカチュア）である。

またもじりは模倣に多少のズレをくわえたものでパロディーといい、ユーモアに必須のテクニックである。物真似、声真似、口真似などはその典型であるが、絵画でも多用される。例えばトロンプ・ルイユというだまし絵の手法や、リキテンシュタイン、アンディー・ウォーホールなどの現代芸術もパロディー的表現といえる。

比喩はごく日常的な表現手段で、私たちがいつも口にする「まるでナニナニのように」のナニナニを、連想の範囲を超えたピッタリの言葉を入れると効果は大きい。比喩も視覚化されていて、例えば、鳥羽僧正が『鳥獣戯画』で、人間を鳥や獣にしている。

2・物語・逸話または実例

スピーチで使う話や実例のユーモアは、すべてスピーチのテーマと関連していなければならないが、スピーチの主題、聴衆、またその場面に適切であるかに留意する。

3・駄洒落・言い回し・皮肉・アイロニー

駄洒落は、ユーモアの中で低いレベルといわれるが、スピーチにユーモアを呼び起こす効果的な方法である。しかし、単純な駄洒落だけではユーモリストとはよばれない。語呂合わせにプラスαが必要で、それは皮肉、ちょっとした

猥褻さ、知識、洞察などを加味する。

また、心の中で思っていることの逆を口にするのを、アイロニーという。皮肉、風刺、からかい、あてこすり、揶揄に極めて有効なおどけの手法である。この手法は相手を選ぶ。つまり、物事を額面通りに受け取る人には、逆効果になったりする。

4・タイミング

スピーチでユーモアをつかうのは、導入、本論、結論どの個所でも使えるが、間の取り方でメリハリが決まる。間はスピーチを強調するものであり、文章の句読点の個所のように、話す時に活用する。

ユーモアスタイルの磨き方

- 1・ ノートやファイルを用意し、スピーチで使えそうなユーモアや話などの引用文を書き留める。
- 2・ 他人のユーモアの使い方に注意を払い、その技術を学ぶ。
- 3・ 日常生活に題材を求め活用する。
- 4・ スピーチやプレゼンテーションの準備の段階で、ユーモアを加える。

チェックリスト

- ・ 自分のユーモアアイデアに満足しているか？
- ・ タイトルは、平凡でなく、刺激的か？
- ・ 導入部は注意を惹くか？
- ・ トピックセンテンスがあるか？
- ・ そのユーモアは、スピーチに関連があり、上品か？
- ・ 間を生かしているか？
- ・ ユーモアは自然で、生き生きした言葉を使っているか？

ユーモアの達人をめざして

ユーモアセンスがある人とは、一つの人格の中に、ボケとツッコミを同居させることができる人である。つまり、常識だけにとらわれず、超常識の発想もする。一面的でなく、複眼でものを見る。自分の立場だけでなく、相手の立場も想像する。

自分を第三者の目で観察することが出来る。マイナスをプラスに転じ、プラスをマイナスと見る自由自在の価値観を持つ。そういうセンスが、自由で思いがけない発想や、物の見方を生み、それが笑いを生む。

日常生活の中で、もっともっとジョークを楽しむ習慣が多くなれば、ユーモアセンスは益々向上するに違いない。

以上、スピーチでユーモアを上手く使える方法をいくつか挙げました。あとは実際にやってみるだけです。さあ！面白いことを言ってみましょう！

参考文献

- * 教育資料 C98 ユーモア：きらめきとスパイスを加えて
- * 森下伸也『もっと笑うためのユーモア学入門』 新曜社
- * 外山滋比古『ユーモアのレッスン』 中央新書
- * 井上 宏『笑いの研究～ユーモア・センスを磨くために』 フォー・ユー

2011年5月20日 京都クラブ例会教育 米澤 良子作成